

令和2年度 政策討論会 第二分科会(第2回) 要点記録

- ・日時 令和2年8月7日
- ・場所 第1委員会室
- ・会議時間 10:00～10:50
- ・出席者 雪本 清浩(座長)
友永 修(副座長)
田中 市子
堂本 啓祐
反甫 旭
河合 馨
米田 貴志
岡林 憲二 (座長、副座長以下は議席番号順)

・議事内容

1. 座長より、今回のテーマが「競輪場を活用した観光促進について」に決定した事を改めて報告。各議員へ、テーマの共通認識について意見を求めた。
2. テーマの提案者から、「岸和田競輪場使用状況」「競輪事業の持続的発展のための新たな取組」「競輪場が果たすべき役割についての研究論文」の参考資料が配布された。
3. 各議員からは、岸和田競輪場の特色・利点(交通アクセス、BMXの併設など)を活かし、市内だけでなく広域での連携を充実させながら、“自転車の街・スポーツの街”として岸和田市の新たなイメージを発信し、交流人口の増加を目指すべきとの意見が多かった。これを今後の共通認識とし政策討論を進めていきたい。

※各議員の発言要旨は別紙記載

4. 次回の討論会日程は、9月23日(水)10時～とし、「岸和田市の現状把握と課題抽出」について進めていく予定。

＜各議員の発言要旨＞

※順不同

● 討論会の進め方としては、①公営事業としての競輪自体の現状や活性化②競輪場を核とした地域のイベントや観光促進について③岸和田市が自転車の町であるというイメージ付けの方策や、自転車の町であるためのまちづくりについてという手順で議論してはどうかと考える。

● 学生などが、スポーツ合宿所として競輪場施設を使用できないものか模索してはどうか。

● 実際に岸和田競輪場に行ってみたが、場外発売しかしていないこともあって、入場者は約 1,000 人という事でしたが、場内の雰囲気はガラガラで、その上、年配者ばかりだった。玉野競輪場が進めているような事業、特にホテルやレストランといった施設は大事で、子どもから大人まで誰でも来やすくするためにも、いろいろ考えていく必要がある。

● 岸和田競輪場は BMX コースも併設されており、ホテルが建設されれば、その利用者の需要も見込める。また、春木駅や高速道路の出入り口からも近く、ポテンシャルの高い施設だと考える。

● 岡山県にある玉野競輪場が本市同様に再整備を進めている。その中で特筆することがあり、本市の競輪場の再整備を進める中で、取り入れるべき点があると考えてるので、紹介する。それは、選手宿舎をホテル兼用にするということである。この取り組みは業界初である。実際に玉野競輪場に足を運ばれた方はご存知かもしれないが、メインスタンドからはバンク越しに瀬戸内海に島々が浮かぶ素晴らしい景色が見える。いわゆるオーシャンビューが楽しめる。この景観を活かして本場開催以外の日にも観光客を取り込もうとしている。もちろん競輪開催日にもホテルのテラスから競輪を楽しむようにする考えである。競輪場運営とホテル運営の効率化を実現し、シナジー効果を発揮しようとするものである。この考えは、本市でも取り入れるべきである。さすがに素晴らしいオーシャンビューは望めないが、競輪場をトラックレースやフリースタイルも含めた BMX など自転車競技、またはスケボーの拠点として考え、また、関西の大きなサイクルルートを見ると、琵琶湖を中心とした「ビワイチ」、淡路島を中心とした「アワイチ」、そして「しまなみ街道」等々に囲まれていて、ここ岸和田も泉州サイクルルートとしてその接続ロードに位置しており、関空にも近いことから一般のサイクリストたちの拠点として活用できると考える。これまでの競輪場は、ギャンブル利用客のみの施設として市民に認識されてきている。このイメージを払拭し、新たに自転車競技の拠点として活用を図るべきである。競輪は「KEIRIN」として、日本初のオリンピック競技であり、今では世界的に人気を博しており、国内でも自転車競技熱は過熱している。ただ、競輪と自転車競技としての KEIRIN はコース設定が違う。国内の競輪は 1 周 330m か 400m であるが、KEIRIN の国際基準は 1 周 250m であり、バンク(コーナー)

の角度も変わってくる。ただ、最近では日本の競輪でも国際基準の KEIRIN を取り入れた1周 250mトラックで競輪を開催する方向に動いており、千葉県で廃場となった競輪場を国際基準の KEIRIN 場として再整備を進めており、近々にも開催される予定である。この取り組みは、これまでギャンブルとしての要素だけであった競輪を、これからは自転車競技の KEIRIN へと変えていこうとするものではないかと思える。実は、その取り組みが非常に重要と考える。アマチュアの自転車競技のプロ化された中に競輪 (KEIRIN) があるという位置づけにするべきであると常々考えているが、現実的にそのファクターが現競輪の大きな改善点になると考える。ここ岸和田競輪場に、自転車競技を楽しまれる方々が集える施設、また競技大会が開ける施設を目指すべきと考える。

※参考資料として、玉野競輪場の再整備記事、岸和田競輪場使用状況、競輪事業の持続的発展のための新たな取組 (JKA、全国施行者協議会、日本競輪選手会 発行) 競輪場が果たすべき役割についての研究 (渡辺俊太郎氏著) を配布。

●ギャンブル施設のイメージを払拭し、スポーツ施設として認識される場にする。

市内のみならず、市外からも人が多く集まる魅力ある施設にする。年齢層を絞るのではなく、広い世代の人が集まる場を作る。全体的に明るい雰囲気にすることが必須だが、特に外観は色調や構造など工夫が必要である。

●スポーツとしての自転車を押し出していければと考える。

岸和田の地形は、幅広い市民が生活で自転車を使う上でも、スポーツとしての自転車競技を行う上でも適している。その核として、競輪場にホテルとまではいなくても、自転車や部品の販売、整備ができる場所、休憩のできるカフェや食堂などを整備、併設してはどうか。若い人たちは自転車にもこだわって、わざわざ遠方や通販などで購入している。そういう人たちが「自転車のことなら岸和田で」となればと思う。

●競輪場を活用した、観光促進についてのテーマに沿って、提案議員から玉野市の玉野競輪場について、また、公益財団法人 JKA 等の資料及び説明を頂きました。本市競輪場は、再整備にかけ、いよいよ工事着手に入っている中、その進捗と今後の整備へ向けた両面での考察の元での討論になっていくのかと考えます。競輪場からの発信で市内展開を考えた時、本市単独での事業展開は難しいと思える。むしろ、広域での実施を考える。『サイクリングモニターツアー』『サイクルツーリズム』一部実施されている。競輪場及び市内・広域との関連性の考え方も必要であると思える。